

なぜお寺に参るのか

私たちは、この世界にいのちをさずかり、日々の生活の中で、仏さまにまもり導かれ生きています。

その仏さまに手を合わせに、お寺に参りましょう。



◆ お寺でのお仏事

永代経 亡き人をご縁として永代にわたり、お寺で法要をおつとめします

春季(秋季)彼岸会 亡き人が往生されたお浄土をおもい、おつとめします

盂蘭盆会 お盆をご縁に亡き人をしのびつつ、おつとめします

報恩講 親鸞聖人のご命日の法要です

お寺によって、この他にも結婚式や初参式など人生の節目に、仏事を営むこともできますので、お気軽にお寺にご相談ください。

◆ お寺でもできる家庭のお仏事

祥月法要 亡くなった方の命日におつとめします

年忌法要 一周忌、三回忌など定められた年の祥月命日などにおつとめします

家庭で営まれる仏事はお寺でも行うことができます。広い空間で密を避け、また、荘厳されたおごそかな雰囲気での法要となります。お気軽にお寺にご相談ください。

「子どもたちの笑顔のために募金」のお願い



国内外の貧困に苦しむ子どもたち、子ども食堂、学習支援、児童養護施設等を支援

【郵便振替】00940-8-282766
(加入者名) 子どもたちの笑顔のために募金
※通信欄に寄付者の本願寺新報掲載の可否を明記
【銀行振込】、【キャッシュレス募金】の
詳細はQRコードから



■ ご案内

ぜひご参拝ください



父も母も 祖父も祖母も その前の人たちも お寺に参った

お寺の本堂に座り、
阿弥陀如来の前で静かに手を合わせて、
南無阿弥陀仏と称える。

父も母も、
じいちゃんもばあちゃんも、
あの人も、
こうしてお寺に参っていた。

昔に聞いたばあちゃんの声が聞こえた気がした。

「いろいろとつらいこともある。

でも、私はこうしてお寺さんに参って生きてきたんだよ」
なにか大きな流れの中に、
大きなはたらきの中に自分がある。

不思議だ。

もう一度、南無阿弥陀仏と称える。



新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といただいて
この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土
仏恩報謝の お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された 歴代宗主の
尊いお導きに よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり
少しずつ 執われの心を 離れます
生かされていることに 感謝して
むさぼり いかりに 流されず
穏やかな顔と 優しい言葉
喜びも 悲しみも 分かち合い
日々に 精一杯 つとめます

(新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)についての消息より)

新しい「領解文」
(浄土真宗のみ教え)についての消息
全文はQRコードから



【親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要のご案内】

2023(令和5)年3月29日～5月21日の間、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要がご本山で勤まります。「親鸞聖人の説き示してくださった浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかったという聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、『立教開宗』に感謝する」法要です。皆さまぜひ、お誘いあわせのうえ、ご参拝くださいますようお願い申し上げます。



ご参拝方法や
法要の詳細は
QRコードから



なお、ご本山以外に教区・別院・組等においても法要が勤まりますので、お問い合わせのうえご参拝ください。